

7月分

トップダウン経営をする。

7月5日

私共の経営計画書には、所長の決意として次のことが書かれています。
「人固は過去の経験則から現在の問題を解決しようとはしますが、世の中、大変革するときには過去の経験則は役に立ちません。ボトムアップでみんなで話し合いよきに計るのでは駄目なのです。ボトムアップ経営は右肩上がりの経済で現状を変えなくてもよいときのみ通用します。今、トップダウン経営のときです。 トップダウン経営とは、社員一人一人が持つ能力なり意見を経営者が吸い上げてトップダウンで実行することです。 しかし、クニマシのトップダウン経営は危険です。ただ、戦術レベルではボトムアップ経営が正しい。」

私はよくお客様から、今や業界はどこかとか、景気はどうか、という会社がよいかとか聞かれますが、私が答えるのは、どの経営者がどのおこな経営をしているか、業績がよいのです。 ということです。すなわち 会社経営は、100%社長 したいといふ方がありません。いくらデフレで景気が悪いと言っても、例えば自動車業界では、トヨタとホンダは業績がよく、業績の悪かった日産が社長がゴーンさんに変わったとたん過去最高の利益を出しているわけですから。まして、我々中小企業は、政治景気のせいにして、誰も助けられません。与えられた経営環境の中で先を読み自社をつぶれない会社に変革していくほかない と思います。

経営者の一番の仕事は時代の流れを読み、世の中の変化に自らを適応させることです。多くの経営者は、会社はいつつぶれるか不安でいっぱいです。明日にでもつぶれるのではなにか思っているのは現状です。ですが、お金の使い方、社員の待遇慎重にならざるをえません。しかし、この経営者の気持ち社員には伝わりません。よく経営者の方から、社員に危機意識がないと言われます。しかし、これは立場が違うのですから、同じ危機意識を持つというのが無理な話だと私は思っています。

そのかわり、経営者は、トップダウン経営におき、スピードを持って会社を変えて行くわけですから、会社が変わるのは、経営者が先頭に立ち実行したときのみです。実行力のない社長では、時代の変化に自社を変化させる実行力のない社長では、会社は存続しません。経営者の戦略、戦術を社員に実行してもらうための最大にして最強の動員は、経営計画書です。経営計画発表会で経営者が社員に協力をお願ひして、社員が経営方針実行に協力すると誓うわけです。

会社は社長（が）いい、トップダウン経営が正しい、だから社長業（楽）い、夢を語り、夢や想いを実現させる最高の場が会社です。
古田 浩